研究者／主任研究員　吉田 絵美

県内のものづくり企業と県内外の大学を結び、商品開発を通じて就職につなげる、産学官連携事業「とやまデザイン・トライアル」。2016年から毎年実施するこの事業では、富山県総合デザインセンターがコーディネートし、今年度、IAAZAJホールディングス㈱（砺波市）と富山大学とのワークショップを実施しました。デザインプロセス、企業による実素材での試作など、リアリティのある商品開発の手法を支援し、企業のもつ強みを活かした新規性の高いデザインが提案されました。

富山大学芸術文化学部生、アパレルブランドの新提案
「とやまデザイン・トライアル」

アパレルブランドを学生たちが新提案

繊維製品の生産地は海外が中心となり、国内での生産が減少していますが、富山、福井、石川の北陸3県はポリエステルやナイロンなどの合成繊維の生産と加工で国内有数の規模を誇ります。なかでも富山県の繊維企業はニット製品の製造と加工を得意とし、IAAZAJホールディングス㈱はアパレル製品の染色・起毛・縫製加工などを手掛け、ニットの染織加工分野では国内最大手です。大手商社やメーカーのOEM製造を手掛けるほか、近年は、自社ブランド開発を推し進め、登山用ウエアのブランドや子供服のブランドを展開しています。

今回、富山大学芸術文化学部学生 18 名が「自社アパレルブランドの新展開」をテーマに、6月から8月までの約2か月、15回の日程で商品企画・提案に取り組みました。学生は店舗での市場調査、デザイナーとのオンラインによる意見交換、開発担当者のアドバイスを得ながら、製造指示書の制作、工場での試作体験を経て提案を行いました。赤ちゃんにやさしい化学繊維として肌ざわりの良さや吸水速乾性を高めた生地の提案、服飾業界が抱える大量廃棄の課題に対して製造過程で出る端材を再利用したウエアの提案、撥水・防塵加工で汚れが付きにくい農作業服の提案など、企業の持つ高い染色・加工技術を活かした新しい発想の商品提案がなされました。企業へのプレゼンテーションは、ブランディングや商品の売り方の提案、PR動画に学生が提出した指示書をもとに企業が製作した試作品を用いて行われました。

提案されたアイテムは全て、現在も試作検討が重ねられ、オンラインショップでの販売を予定しています。